

社団法人 大阪府臨床検査技師会

平成 24 年度 第 1 回定期総会（平成 23 年度決算総会）

- 日 時 平成 24 年 5 月 24 日（木）午後 7 時 00 分～8 時 00 分
場 所 社団法人 大阪府臨床検査技師会 事務所
次 第 1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 議長挨拶
4. 総会役員選出
1) 資格審査委員兼議事運営委員任命
2) 書記任命
5. 会長挨拶
6. 資格審査報告
7. 議案審議
1) 第 1 号議案 平成 23 年度各部事業報告に関する件
2) 第 2 号議案 平成 23 年度決算に関する件
3) 第 3 号議案 その他
8. 議事録署名人選任
9. 総会役員解任
10. 閉会の辞

議事録（概要）

1. 開会の辞

定刻どおり吉本副会長より平成 24 年度第 1 回定期総会開会の辞があった。

2. 議長選出

議長選出について、総会出席者中より立候補者がいないため、執行部から議長候補者として夏秋知佳氏（自宅会員）ならびに伊東千絵氏（小阪産病院）の 2 名を推薦し、出席者の挙手をもって承認された。

3. 議長挨拶

夏秋議長より議長就任の挨拶があった。

4. 総会役員選出

1) 資格審査委員兼議事運営委員任命

夏秋議長より、資格審査委員兼議事運営委員として理事から高田常務理事ならびに荒木常務理事の 2 名と、出席者より津田喜裕氏（大阪府立中河内救命救急センター）、岡部文雄氏（結核予防会大阪府支部）、三上英子氏（高津病院）の 3 名が選任され、両委員会の委員長に高田常務理事が選任された。

2) 書記任命

夏秋議長より、書記として大臨技事務所職員の岩崎和子氏ならびに出口由紀子氏の 2 名が選任された。

以上の総会役員任命について、出席会員の挙手をもって承認された。

5. 会長挨拶

会員の皆様には大阪府の技師会活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。平成 23

年度は日臨技体制の大きな変化があり大臨技も大きく左右された年度でしたが、大臨技事業は計画通りに進めることが出来ましたのでご報告させていただきます。

当会の目的は定款第3条にもありますように臨床検査技師及び衛生検査技師の学術技能研鑽を行い併せて、地域医療及び公衆衛生の向上を図り、もって府民の健康の保持、増進に寄与することにあります。この目的に沿って会員や医療従事者の学術技能の研鑽およびそのサポート体制を織り込んだ平成23年度の事業計画及び予算を立てて、平成23年3月の総会で承認いただきました。その事業計画及び予算に則って、事務局、事業局ともに着実に事業を推し進めることが出来ました。役員、世話人、各部部員の皆様の尽力のおかげと感謝申し上げます。

公益社団法人への移行についても着実に進めております。会員の資質の向上を図り、府民の健康保持、増進を目的にしている当会が公益法人を目指すのは当然だと考えています。

その他事業として緊急検査と内視鏡検査の研修会を開催しました。緊急検査部会が4回、内視鏡検査部会が3回研修会を開催し、重要な情報を会員に提供することができました。

また、データ標準化事業についても9月と3月に報告・研修会を開催し、10月には標準化に向けて大臨技データ標準化委員会主導で基幹病院の協力の下でデータ標準化サーベイを実施することが出来ました。事業の詳細につきましては担当者から報告いたしますので、ご審議の程よろしくお願いします。

以上、会長挨拶とさせていただきます。

6. 資格審査報告

高田委員長より資格審査報告があり、本日の会員出席者数28名、委任状によるもの2,078名、計2,106名で、平成24年5月24日現在の正会員総数3,094名の過半数を超えており、本総会は成立するとの報告があった。この報告を受け、夏秋議長より定款22条に基づき本総会の成立宣言があった。

ここで、議長を伊東議長に交代した。

7. 議案審議

1) 第1号議案 平成23年度各部事業報告に関する件

各部から議案書に沿って平成23年度の事業報告が行われた。

総務部

吉本副会長より、庶務、広報の2つの部会のそれぞれについて順に報告した。

1. 庶務部会についての大臨技運営に関わる業務として、

- 1) 2回の定期総会の開催については、開催案内および委任状の会員への送付や、総会時の永年会員表彰関連の準備作業も行った。
- 2) 常務理事会、理事会、総務・会計部会の開催準備および開催を行った。
- 3) 平成22年度の事業報告書を作成し大阪府へ報告した。
- 4) 公益社団法人の認定取得に向け、定款改訂等の準備を進めた。
- 5) 教育機関との連携強化のため、各教育機関学生に対し、大臨技活動の啓発を目的に「大臨技ニュース」の配布や、各学校長より推薦された学生に対し卒業式時に「大臨技会長賞」の授与を行った。
- 6) 会員管理の充実を図るため、一昨年前に導入した「大臨技会員管理システム」の運用を始め、
- 7) 「大臨技会員証」の発行、
- 8) 大臨技のみの会員のための「大臨技臨床検査技師賠償責任保険」の管理を行った。

2. 広報部会については、

- 1) 「大臨技会報」は、会員の皆様へ大臨技の経緯および関連資料を提供することを目的に、通巻第197号を3200部発行した。
- 2) 「大臨技ニュース」は、月々の月間予定を含む最新ニュースを届けるため、第267号から第278号まで毎月1日に発行した。
- 3) 大臨技ホームページにおいては、特に、昨年度は「求人揭示版」への掲載依頼が217件と一昨年より3割増しており昨今の臨床検査技師不足を反映していた。このように、大臨技ホームページは、関連団体からの情報や理事会議事録の掲載など、会員の皆様に対し有益な情報を、リアルタイムで正確に提供するため、逐次更新した。

渉外部

清水理事より、渉外部の 3 事業（献血推進運動、他団体との連携交流、障害者への理解と協力）の報告があった。

平成 23 年度は、地域医療推進と臨床検査の普及啓発に関する事業として、大阪府民の健康増進と福祉の向上、関係団体と協力し地域医療を推進することを目的に、

1. 献血推進活動。2. 他団体との連携交流。3. 障害者への理解と協力を目的に手話講演会および講習会の開催。また、日臨技公益委託事業の 2 事業および新たな事業として、大阪府細胞検査士会とともに子宮がん検診啓発活動を行った。
 - 1) 献血推進活動について、第 36 回献血推進活動を平成 23 年 8 月 27 日(土)10:00~16:30、難波グリーンガーデン、まいどなんば献血ルームにおいて開催し、献血受付 161 名、献血者 127 名の協力があつた。第 37 回献血推進活動は、平成 24 年 2 月 18 日(土)10:00~16:30、難波グリーンガーデン、まいどなんば献血ルームにおいて開催し、献血受付 199 名、献血者 158 名の協力があつた。
 - 2) 他団体との連携交流について、大阪府「看護の日」記念行事として、平成 23 年 5 月 14 日(土) 11:00~16:00 看護協会桃谷センターにて、世話人 23 名の協力により、血糖測定 206 件、頸部エコー176 件、尿定性検査 57 件の測定を行った。第 6 回府民健康フォーラムは、平成 23 年 10 月 2 日(日)13:00~16:00 大阪 YMCA 国際文化センターにて、「あなたの腎臓大丈夫ですか？」をテーマとして開催し、284 名の参加があつた。第 11 回大臨技・大放技合同フォーラムは、平成 24 年 2 月 21 日(土)14:00~17:00 大阪府医師協同組合にて、「感染(うつ)さない 感染(うつ)らない身近に忍び寄る結核」をテーマとして開催し、127 名の参加があつた。子宮がん検診啓発活動は、平成 23 年 7 月 23 日(土)10:00~13:00 まいどなんば献血ルーム周辺において大阪細胞検査士会と協同で献血の呼びかけとリーフレット配布を行った。
 - 3) 障害者への理解と協力については、手話講演会を大阪医療技術学園専門学校にて、平成 23 年 12 月 3 日 14:30~16:00 「相手の心に一歩近づくコミュニケーション」をテーマに多田京子先生を講師に迎え開催し、100 名の参加があつた。
 - 4) 日臨技公益委託事業の 2 事業は、乳がん検診啓発推進活動(がん予防啓発に関する事業)として、第 2 回乳癌検診フォーラム「マンモグラフィー・超音波検査・画像からみた乳がんの病理」を平成 23 年 11 月 19 日(土) 14:00~17:00 大阪府医師協同組合会館にて開催し、141 名(会員 103 名、一般 38 名)の参加があつた。エイズ・STI 予防に関する事業として、「HIV 予防研究会」を、平成 24 年 2 月 4 日(土)16:30~18:00 大阪医療技術学園専門学校にて開催し 53 名(学生 40 名、会員 12 名、一般 1 名)の参加があつた。

情報組織部

井戸田理事より、平成 23 年度事業の報告があつた。

情報組織部では技師会における組織の強化ならびに新人の教育研修および技師会への入会斡旋、またチーム医療部門との連携により、技師のチーム医療への参画とスキルアップ、他職種との情報共有を目的に平成 23 年度事業を開催した。

1. 新入会員研修会を平成 23 年 7 月 2 日に開催し、新人の技師会活動の理解を深めるための研修と交流を行ない、22 名の参加があつた。
2. 第 28 回技師長会を平成 24 年 2 月 25 日に、「第 3 者評価を考える」をテーマに開催し、2012 年度診療報酬改訂に関する速報と、病院機能評価および ISO15189 に関連した第 3 者評価の講義を行い、75 名の参加があつた。
3. 多職種合同 ICT 研修会を平成 23 年 12 月 23 日に「ICT 活動の現状と未来 ~これからの感染制御について語ろう!~」をテーマとして、ICD・ICN・BCICPS・ICMT の立場から、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師を対象に討論を交えた横断的研修会を、チーム医療部門 ICT 部会と共同開催し、61 名の参加があつた。
4. チーム医療部門糖尿病療養指導士部会では糖尿病治療と糖尿病療養指導についての特別講演会を平成 23 年 7 月 20 日と平成 24 年 2 月 5 日に開催し、各々の参加者数は 110 名および 89 名であつた。また、定例勉強会を 4 回開催し、各々 44 名、33 名、24 名、43 名の参加があつた。
5. チーム医療部門 ICT 部会では、平成 23 年 7 月 1 日に災害時の感染症および感染対策に関する内容で定期講習会を開催し、36 名の参加があつた。
6. チーム医療部門 NST・褥瘡部会では、平成 23 年 10 月 15 日に NST 活動・NST 教育・NST 専門療法士認定試験に関する講演会を開催し、37 名の参加があつた。

7. チーム医療部門生殖医療部会では平成 24 年 2 月 16 日に奈良県臨床検査技師会と合同で子宮内膜症についての講演会を開催し、44 名の参加があった。

地区事業部

田畑常務理事より、平成 23 年度の 3 事業の報告があった。

地区事業部では、平成 23 年度は、1. 地域の会員相互の交流強化、2. 各支部における自由集会及び地域医療フォーラムの開催、3. 府民参加型健康啓発事業への協力、の 3 つの事業計画に従い事業活動を行った。

1. 会員相互の交流強化の事業として

- 1) 「会員交流会」を信貴山のどか村にて 9 月 23 日に大放技と合同で開催し、登山、バーベキューを通じ、親睦を深めることが出来た。
- 2) 施設連絡者会を薬業年金会館にて、3 月 17 日「2012 年度診療報酬改定」をテーマに、診療報酬制度の基礎や今後の方向性についての講演、および、「技師会報告」として大臨技の今後の方向性や会員区分についての報告を行った。

2. 自由集会及び、地域フォーラムの開催事業として

北、中央、南の 3 支部それぞれ 1 回の自由集会と地域オープンセミナーを開催した。

- 1) 北支部では、大阪医科大学にて、7 月 9 日に、テーマ 1「感染性廃棄物の適正処理について」、テーマ 2「小児診療と臨床検査 ~大人の基準値が役に立たない~ 検査編・臨床編」として開催した。自由集会は、12 月 3 日に、「検査と薬 ~感染症領域における臨床検査技師と薬剤師の役割について」をテーマに開催した。
- 2) 中央支部では、大阪医療技術専門学校にて 5 月 21 日に、テーマ 1「感染性廃棄物の適正処理について」、テーマ 2「体表超音波検査、血管エコー・乳腺エコーについて」として開催した。自由集会は、大阪研修センターにて 3 月 3 日に、「~明日から使える臨床検査の基礎知識あれこれ~ 心電図・血液・一般検査の検査目的やデータの読み方について」をテーマに開催した。
- 3) 南支部では、岸和田市民病院にて 7 月 16 日に、テーマ 1「感染性廃棄物の適正処理について」、テーマ 2「若手技師 VS 先輩技師 ~両者の接点を見つけよう~ 新人教育プログラム・若手技師からの報告・バトルディスカッション」として開催した。自由集会は、2 月 4 日生長会府中病院にて、「変化する医療情勢と診療支援を考える」をテーマに開催した。

4 月 1 日より施行された廃棄物処理等に関する法律の一部改正があったため、23 年度の自由集会において 3 支部とも感染性廃棄物の適正処理についての講演を行った。

3. 府民参加型健康啓発事業に関する協力として

豊中、吹田、摂津の健康展において、各健康展とも地域の方々を中心となり、多くの市民の参加があり大盛況であった。また、3 年目の協力事業として、大阪南港 A T C ホールにて、6 月 25 日と 6 日にマタニティーカーニバル 2011 体験コーナーを運営し、2 日間で 21,000 人を超える来場者があり、体験コーナーもさらに充実したものとなり今後も府民のための公益活動として参加協力したいと思う。

学術部

高田常務理事より、平成 22 年度の学術部事業報告があった。

学術部の事業活動では、学術部会関係として、学術部事業を開催するための準備会議や企画会議を毎月第 2 火曜日に大臨技事務所で行った。他事業部や他団体との事業への協力として「看護の日」には生理検査部門と一般検査部門よりボランティア協力を、「府民健康フォーラム」「大臨技・大放技学術フォーラム」や「新入会員研修会」には講師の推薦や派遣を行った。学術部が担当する第 7 回大臨技教育セミナーの準備会議である各検査技師養成学校ならびに大学の担当者との懇話会を本年 3 月 28 日に大臨技事務所において事業部各部長も出席して意見の交換を行った。

講習会は、学術部担当事業として、7 月 16 日に関西医大附属滝井病院にて第 6 回大臨技教育セミナーを開催し、教育講演では、昨年に発生した東北大地震の復興支援に参加した神戸常磐大学の坂本先生に「臨床検査と POCT」を、ワークショップでは例年通り大阪府下の検査技師学校・大学の先輩諸氏に「いろいろな職場で活躍する先輩が抱負を語る」をテーマに現状や今後の希望等の講演をお願いした。参加者 161 名の大部分を占める学生にとって、実社会に進む時の一助となる講演だったと考えます。

学術部が主催する講演会を 2 回開催し、第 5 回は「話題の循環器疾患を学ぶ」をテーマに臨床化学・生理・微生物・血液部門が担当し、9 月 17 日に関西医大附属滝井病院で実施し、114 名の参加があった。第 6 回は「感染症見聞録 ~画像化から見た感染症~」をテーマに生理・微生物・血液・病理細胞・一般と協賛会員が担当し、3 月 10 日に関西医大附属滝井病院で開催し、84 名の参加が

あった。何れも、分野を越えた白熱した討論が行われ、事前に綿密な打ち合わせもあり、満足のいくものであったと考えます。

日臨技、近臨技関係は、大臨技ニュース第 280 号に掲載されているように、東京都で開催した第 60 回日本医学検査学会には、一般演題・シンポジウム等の座長・司会を 13 名推薦し、シンポジウム等に 2 題、一般演題では 36 題の発表があった。大津市の第 51 回近畿医学検査学会では、13 名の座長推薦を行い、51 題の一般演題とシンポジウム等に 11 題の発表がありました。座長・司会に関しては前年同様の数でしたが、一般演題では昨年度を上回り、全一般演題数の 1/3 を占める結果となりました。

各部門の学術研究活動については、講演会、研修会、実技講習会等の事業を実施。予算総会で承認された事業に加え生理部門の腹部超音波実技研修会を追加し 23 年度は昨年とほぼ同じ 105 回の事業開催でしたが、参加者は昨年度の 1 割増の約 7000 名でした。公益法人に向けて多くの学術部事業は他職種公開講座としたため参加者の 1 割は他職種の方や非会員の方でした。各部門の世話人の方の工夫により開催される各事業が会員の方のスキルアップと新しい知識の習得に少しでも寄与していると確信しております。今後も会員のニーズの掘り起こしとそれに対応するかを積極的に考えていきたいと思えます。

以上のように学術部としては平成 23 年度も予算総会で承認された計画案で事業を展開し、ほぼ満足すべき成果を残せたと考えております。

以上の第 1 号議案「平成 23 年度各部事業報告に関する件」は質問、意見共なく出席会員の挙手をもって承認された。

2) 第 2 号議案 平成 23 年度決算に関する件

「平成 23 年度決算に関する件」について別紙「収支計算書」に沿って荒木理事より説明された。

収入に関する報告

会費収入：会員会費収入増、賛助会員会費収入減により 101,000 円の増収、事業収入：日臨技生涯教育講座収入を予算額に計上せず入金されたのでその分 1,612,700 円の増、補助金収入：日臨技助成金の入金により 1,486,300 円の増収、雑収入：1,669,466 円の減、当期予算額に対し 1,389,524 円増の 34,599,524 円であり、前期繰越収支差額と合わせ 42,594,682 円の収入を計上した。

支出に関する報告

人件費：274,585 円の減、会議費：116,675 円の減、事務経費：281,098 円の減、事務所費：173,384 円の減、支出 1 の小計 14,604,258 円で 845,742 円の減。学術研究費：1,330,594 円の減、広報印刷費：247,353 円の減、渉外費：541,940 円の増、情報組織費：324,994 円の減、各種研修会費：65,778 円の減、各種委員会費：385,715 円の減、地区事業費：81,918 円の減、諸経費：818,382 円の減、支出 2 の小計 21,026,316 円で 3,733,684 円減。支出 1+支出 2 で当期予算額に対し 4,579,426 円減の 35,630,574 円を計上した。当期収支差額は 1,031,050 円と合わせ、6,964,108 円を次期繰越収支差額とした。昨年より 100 万の繰越金が減っていることも伝えた。

続いて栗本監事より、定款 36 条の規定により平成 23 年度の監査を、栗本監事ならびに山中監事で実施した結果について監査報告があった。

【監査報告書】

1. 会務について

平成 23 年度定期総会において、決議された事業計画については、円滑に遂行されていることを認めます。

事務局、事業部の各部署は、公開講座などの府民への積極的な情報提供、会員への迅速で適切な情報公開そして会員ニーズに適合した教育・研修の実施および公益法人移行のための事業再編や会計報告・会員管理・会費納入管理の変更対応など迅速かつ適正に会務を遂行されており高く評価いたします。

2. 会計について

損益計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録をはじめ各帳簿並びに各証拠書類の整理及び備品管理は指摘事項なく適正に行われていると認めます。

3. 意見及び要望事項

平成 24 年度は実質的に公益社団法人としての事業開始の年となりますので、技師会会員および大阪府民から親しまれる開かれた社団法人 大阪府臨床検査技師会として評価を得られるよう、一層努力されることを希望いたします。

また、公益法人移行後は公益法人の基準に適合した事業内容と予算管理および財務管理が求められます。特に、損益管理に十分留意をして、正味財産を適正に維持することが重要となります。今後、大臨技役員・部員がより一層協力して会員および府民のために公益法人にふさわしい会務を遂行されることを期待します。

以上の第 2 号議案「平成 23 年度決算に関する件」および「会計監査報告」は質問、意見共なく出席会員の挙手をもって承認された。

3) 第 3 号議案 その他

今井前会長への名誉会員付与について

運天会長より「今井前会長を大臨技名誉会員としたい」との提案があったため、議長より上程されが、当提案について、質問、意見共なく出席会員の挙手をもって承認された。

第 3 号議案「その他」について、以上で上程なしと判断した。

8. 議事録署名人選任

伊東議長より、議事録署名人として本日出席者の中から、山本裕之氏（大阪赤十字病院）、藤野正裕氏（国立循環器病研究センター）の 2 名が選任された。

以上の議事録署名人の選任について、出席会員の挙手をもって承認された。

9. 総会役員解任

伊東議長より、本総会の役員および書記が解任され伊東議長より、議長退任の挨拶があった。

10. 閉会の辞

竹浦副会長より、平成 24 年度第 1 回定期総会閉会の辞があり、午後 8 時 00 分閉会となった。

平成 24 年 5 月 24 日

議 長	印
同	印
議事録署名人	印
同	印